

## 鳥根大学医学部附属病院開院40周年記念祝賀会を開催



出雲市副市長 藤河 正英 様  
出雲医師会 堀江 卓史 様  
鳥根県知事 丸山 達也 様  
鳥根県看護協会会長 秦 美恵子 様



前病院長 小林 祥泰 様



(左から) 齊藤副院長、小林前病院長、井川病院長、服部学長



廣瀬 昌博 副院長による万歳三唱

10月10日(木)、出雲ロイヤルホテルにおいて「鳥根大学医学部附属病院開院40周年記念祝賀会」を開催しました。40周年記念式典の終了後に開催され、15名の来賓の皆様のご臨席を賜るとともに、鳥根県内57関連病院の病院長等と、当院関係者36名、総勢107名が出席しました。

祝賀会は、井川幹夫病院長による開宴の挨拶で幕を開け、長岡秀人出雲市長(藤河正英出雲市副市長による代読)から祝辞を頂戴し、乾杯のご発声は堀江卓史出雲医師会会長から賜りました。

続いて、しばしの歓談を挟み、丸山達也鳥根県知事、秦美恵子鳥根県看護協会会長、小林祥泰前病院長からスピーチを披露していただきました。その後は、鳥根大学シュールカメラト管弦楽団による演奏の中、参加者が歓談され、最後に廣瀬昌博副病院長による万歳三唱により、盛会のうちに閉会となりました。

# NEWS



## 鳥根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

11月15日~12月14日

対象者: 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
11/15(金) 9:30~11:30	2019年度 鳥根県がんピアサポーター相談会	外来中央診療棟3階 がん患者・家族サポートセンター	一般	鳥根大学医学部附属病院
11/15(金) 15:00~16:00	2019年度 第4回 誰でも参加できる糖尿病教室	ゼブラ棟2階 だんだん	一般	鳥根大学医学部附属病院 糖尿病ケアサポートチーム
11/23(土) 14:00~15:30	小児がん経験者(治療中含む)の親の交流会	外来診療棟3階 ほっとサロン	一般	鳥根大学医学部附属病院 がん患者・家族サポートセンター
11/28(木) 18:30~19:30	2019年度 臨床研究・統計セミナー「GCP、医師主導治験」	講義棟3階 L3講義室	医療 本学	鳥根大学医学部附属病院 臨床研究センター
11/30(土) 10:00~16:00	第7回認知症の予防・治療・介護の最前線シンポジウム2019	★ホテル ニューエルシティ出雲	医療 本学 一般	鳥根大学医学部 環境生理学

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。

### CONTENTS

- ・第16回鳥根大学医学部附属病院関連病院長会議を開催
- ・鳥根大学医学部附属病院開院40周年記念式典を挙
- ・鳥根大学医学部附属病院開院40周年記念祝賀会を開催

鳥根大学医学部における  
研修会・セミナー開催情報



## 第16回鳥根大学医学部附属病院関連病院長会議を開催

10月10日(木)17時30分から、出雲ロイヤルホテルにおいて「第16回鳥根大学医学部附属病院関連病院長会議」を開催しました。

この会議は、当院への患者紹介や当院からの医師の派遣等を通して関係の深い病院・診療所との意思疎通を図ること、また地域医療に貢献することを目的として設置され、毎年1回開催しており、今年で16回目を数えます。

会議には、鳥根県内57関連病院の病院長等と、井川病院長を始めとする当院関係者44名、総勢106名が出席しました。



冒頭で井川病院長から挨拶があった後、卒後臨床研修センターやがんゲノム医療センター、ロボット支援手術推進センター等の取り組み、循環器内科、眼科(下図)、形成外科のトピックス等について報告が行われました。

最後に、井川病院長より当院からの医師派遣の状況や当院の運営状況についてお伝えし閉会しました。

## 緑内障啓発活動～ライトアップイングリーン



## 鳥根大学医学部附属病院開院40周年記念式典を挙

10月10日(木)に、出雲ロイヤルホテルにおいて鳥根大学医学部附属病院開院40周年記念式典を挙りました。式典には15名の来賓の皆様のご臨席を賜るとともに、鳥根県内57関連病院の病院長等と、当院関係者40名、総勢117名が出席し、盛大に執り行われました。

式典は、井川幹夫病院長による開式の挨拶で幕を開け、続いて服部泰直鳥根大学長からの挨拶の後、丸山達也鳥根県知事(藤原孝行鳥根県副知事による代読)、森本紀彦鳥根県医師会会長(秦正鳥根県医師会副会長による代読)から祝辞を頂戴しました。

次に、「附属病院40年のあゆみ」と題して井川幹夫病院長による講演があり、40年の歴史を振り返るとともに、これからの鳥根大学医学部附属病院の在り方を展望しました。続いて、「国境なき医師団の信念と活動」と題して国境なき医師団会長の加藤寛幸先生よりご講演をいただき、エボラ出血熱に対する緊急援助等、現地での活動について写真や映像を交えて講演され、式典の参加者は熱心に耳を傾けていました。

最後に、鬼形和道医学部長の閉会の挨拶で式典を締めくくりました。



井川 幹夫 病院長による開式の挨拶

鳥根大学長  
服部 泰直 様

鳥根県副知事  
藤原 孝行 様

鳥根県医師会副会長  
秦 正 様



国境なき医師団会長  
加藤 寛幸 様



# ご報告

## 地域と大学を結び 世界に発信する救急医療を目指して

救急医学講座 教授 **いわした よしあき**  
岩下 義明

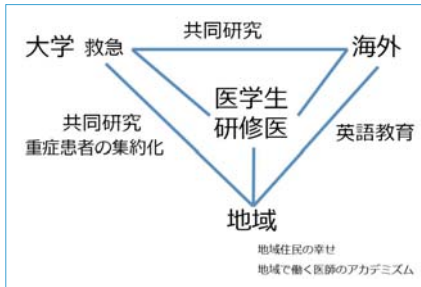
10月より島根大学救急医学講座の教授を拝命することになりました。私は島根大学24期卒で、北里大学救急医学、山形大学病院救急部などを経て、2011年から三重大学医学部附属病院救命救急センターで8年ほど診療・研究・教育に従事して参りました。主な専門分野は救急・集中治療、とりわけ重症呼吸不全患者に対する人工呼吸、人工肺(ECMO)、チーム医療などです。

このような、超重症急性期患者に携わる一方で、地域の病院からの紹介患者を多数断らざるを得ないというジレンマ、地域の病院のスタッフ不足の中で重症患者診療を行わないといけないという現実も感じており、そのような地方の厳しい現実を疫学的研究として発表するという仕事もしてまいりました。

そのような地域の課題に取り組みたいという思いで、2018年10月からは三重大学を退職し、紀伊半島最南端の140床ほどの紀南病院、那智勝浦温泉病院といったへき地の病院で非常勤の救急医として働きながら、地域の住民と医療に留まらない地方創生活動を行ってまいりました。

今後は地域の実情に応じた救急医療体制の構築や、医療従事者・医学生が地域住民と触れ合ってもらうことにより、人が好きで地域が好きで、地域をよくしたいという気持ちで地域住民とつながる医療者を育成したいと考えております。さらに、世界の先進諸国も高齢化が進み日本と同様の課題感を持っており、日本の取り組みは今後世界からも注目されることとなります。島根から新しい取り組みを英語で発表し世界をリードしていく仕事をしたいと考えております。

とはいえ、私は38歳の若輩者であり、まだまだ多くの先生方にご迷惑をおかけすることがあると存じます。どうぞ長い目で見て頂き、診療科や病院の枠にとらわれずよりよい島根を作っていくと考えております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。



# ご報告

## LSVT® BIG認定療法士が誕生しました

リハビリテーション部 理学療法士

いしだ しゅうへい  
石田 修平  
まつむら はるか  
松村 知華  
ささき しょうた  
ささき しょうた  
佐々木 翔太

パーキンソン病に対するリハビリテーションは、患者さんの症状改善やQOLの改善のために重要とされています。日本神経学会の「パーキンソン病診療ガイドライン 2018」においても、リハビリテーションが有効であることが示されています。従来から関節可動域訓練やストレッチング、トレッドミルでの歩行訓練などの効果が示されていましたが、最近ではLSVT® (Lee Silverman Voice Treatment) BIGという新たなリハビリテーションプログラムも注目されています。

LSVT® BIG とは、パーキンソン病に特化した動作の大きさの低下や動きの遅さの改善を目的とするリハビリテーション手法です。声の大きさに焦点を当てたLSVT® LOUDの基本概念が運動障害の改善へと応用されました。軽度～中等度のパーキンソン病に特に有効とされ、1回60分の運動を週4回、4週間継続することが必要です。歩行能力やバランス機能、パーキンソン病の評価尺度などに効果があることが報告されています。

LSVT® BIGを実施するためには、所定の研修に参加し認定されることが必要ですが、このたび当院では3名の理学療法士が認定され、島根県初の有資格者となりました。パーキンソン病患者さんの症状改善やQOLの改善に貢献できるよう引き続き知識と技術の習得に努めてまいります。



(本件は島根大学医学部附属病院高度医療推進等基金の補助により実現しました)





島大病院ニュース 2019年11月

# ご報告

## 術後再建腸管患者の胆膵疾患に対する ダブルバルーン内視鏡治療について

消化器内科	しばがき こうたろう 柴垣 広太郎
消化器内科	そのやま ひろき 園山 浩紀
腫瘍・血液内科	もりやま いちろう 森山 一郎

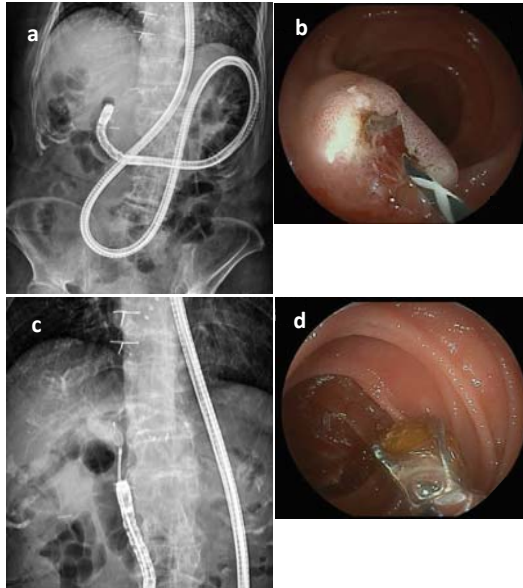
胃や胆管・膵臓などの手術を受けられた患者さんが、術後に胆管結石や吻合部狭窄を発症することがあります。以前は経皮的な治療や再手術が必要でしたが、小腸評価するために開発されたダブルバルーン内視鏡が術後再建腸管患者の胆膵疾患にも改良されて内視鏡的治療が可能となりました。

ダブルバルーン内視鏡についてですが、内視鏡先端とオーバーチューブ先端にバルーンが装着されており、これら二つのバルーンで腸管を短縮しながら腸管内に内視鏡を挿入していきます。これにより以前までは術後再建腸管のため内視鏡が到達できなかった胆管/膵管空腸吻合部や十二指腸乳頭部へ到達することが出来、内視鏡的治療が可能となりました。

当院では2010年頃からダブルバルーン内視鏡を用いて術後再建腸管患者の胆膵疾患の診断・治療を積極的にいき、現在では年間100件を超える豊富な症例数を経験しています。

本検査・治療は消化器内科の内視鏡手技のなかでも高い技術が要求されるため、全国的にも限られた施設で行われていない新しい検査・治療です。当院では県内のみならず、他県からも患者の受け入れを行っています。

是非、お困りの症例がありましたら当科へご紹介いただければ幸いです。



胃幽門側胃切除+R-Y再建後、総胆管結石胆管炎に対してダブルバルーン内視鏡下胆管造影検査を施行。  
ダブルバルーン内視鏡を十二指腸乳頭部まで挿入(a)、乳頭を切開し(b)、バスケット鉗子で総胆管結石を採石した(cd)

問合せ先

消化器内科 TEL:0853-20-2381

ご報告  
島大病院ニュース

2019年11月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2019年11月

# ご報告

## 口腔から全身合併症の予防! 口腔ケアセンターの取り組み

歯科口腔外科口腔ケアセンター	センター長	准教授	かんの たかひろ 管野 貴浩
	副センター長	助教	もとおか あきひろ 本岡 明浩
	副センター長	助教	まつた ゆうへい 松田 悠平

当院では、多職種が連携する「周術期管理チーム」が、手術治療を受けられるすべての患者さんの周術期における全身への合併症軽減に取り組んでいます。口腔内には多種多様で膨大な数の細菌が常在し、周術期における全身合併症を引き起こします。

本年5月より、この周術期管理チームとの連携のもと、「口腔ケアセンター」が発足しました。開設当初より、月間300人の新規患者さんと、毎月延べ約1,000人の患者さんの周術期口腔ケアによる口腔管理を担当しています。現在、当院で全身麻酔手術を受けられる全ての患者さんの合併症を予防すべく口腔機能管理を実施する体制が整いました。

また口腔ケアセンターでは、院内各診療科と連携した口腔ケア(がん治療:放射線治療、化学療法、緩和ケアや集中治療室における口腔ケア、在宅医療での口腔管理など)を実施するのみならず、島根県全域における口腔ケア診療の中核となるべく、あらゆるライフステージに応じた口腔ケアに関する臨床、研究、教育を行なっています。研究に関しては、他院と連携したビックデータ解析を中心とした客観的評価に向けた指標作成を展開し、近年求められる「口腔ケアのエビデンス」構築に寄与しています。教育に関しては、院内外での研修会の実施と、他施設からの医療職(看護師、歯科衛生士等)の研修を順次受け入れています。

全身疾患を治療するうえで、「命の入口、心の出口」とも呼ばれる口腔のケアと管理による全身の健康に果たす役割は、今後ますます増加するものと考えられます。当院のみならず、地域と社会が求める「口腔医療」への期待に応えるべく、今後も活動を展開して参ります。

ご報告  
島大病院ニュース

2019年11月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2019年11月

# ご報告



## 患者さんのニーズに合わせた AYAルーム

小児科	教授	たけたに たけし 竹谷 健
C病棟6階	看護師長	ながた りか 永田 里佳

2019年8月1日に、マニユライフ生命、NPO子ども健康フォーラムおよび島根県小児がん募金のご支援により、思春期から30歳代（AYA, adolescence and young adult: 思春期若年成人）の患者さんに適した療養環境整備の一環として完成したAYAルームがオープンして3か月が経過しました。

使用に当たって、AYA世代の患者さんに快適でかつ安全に過ごしていただくために、患者さんの目線でAYAルームを稼働する時間帯や使用方法を決めました。

現在、1日平均3～5人の患者さんに利用していただいております。C病棟6階小児センターの中高生が勉強したり読書をしたりすることが多いですが、パソコンやボードゲームを行うこともあります。

また、病室では勉強に集中できない患者さんがテスト勉強に集中したり、大部屋でゆっくりできない患者さんがソファでくつろぐことができたり、ボードゲームをきっかけに患者さん同士が仲良くなり、同世代の横のつながりができる場面もありました。

今後も、AYA世代の患者さんが入院治療を受けながら、自宅で生活しているかのように患者さんごとのライフスタイルを維持できる病院生活を行うことができるように、支援したいと思います。



島大病院ニュース 2019年11月

# ご報告



## プレグナンシーボードの開催について

周産期母子医療センター	センター長	かなさき はるひこ 金崎 春彦
	副センター長	みなもと としこ 皆本 敏子

「合併症妊娠」とは病気を持った女性が妊娠をすることを指します。古い言葉ですが、長い間医療の隙間として理解が深まらなかった分野です。「妊娠したら薬は飲んではいけない」といった誤った知識によって多くの妊婦が悩み、場合によっては本来妊娠継続できたはずの妊娠を中断する、もしくは産後の断乳を余儀なくされることもありました。おそらく正確には「妊娠したら薬を選んできちんと管理し、疾患としっかり向き合うこと」が重要であると思われます。

当院では以前から妊娠とお薬相談センターを開設し合併症妊娠に力を入れてきましたが、今回はさらに、持病を持ちながら妊娠を希望する女性、幸運なことに妊娠することができた女性に対して適切な医療と教育を提供し、よりよい妊娠転機と産後の長期的な母児の健康維持をめざして、プレグナンシーボードを開催することとなりました。

具体的には合併症妊娠の症例を内科・産婦人科・小児科・薬剤部など妊婦に関わるすべてのスタッフが一堂に会し治療方針を検討するカンファレンスです。想定した以上に各科で知識共有できていなかった部分を補ったり、出産後の児への影響を考慮したケアを計画することができたりと大変有用な会だと考えております。現在は院内カンファレンスの形態ですが、今後は院外にも広く周知し地域医療との連携および地域全体のレベルアップへの貢献ができればと考えております。



2019年11月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当  
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



2019年11月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当  
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





## 検査部長就任のご挨拶

栄養サポートセンター センター長  
臨床検査医学講座 准教授 矢野 彰三 やの しょうぞう



2019年10月より検査部長ならびに臨床検査科長を拝命しました。病院の中核を担う重要な部署であり、まさに身の引き締まる思いです。検査部には、受付、採血、一般検査、血液・凝固、生化学・免疫、遺伝子、外注窓口、微生物、生理機能検査などがあり、輸血部や病理部とも連携しています。夜間の当直業務や緊急輸血の対応、病棟での検査もあります。そのため多くの職員、専門の臨床検査技師が働いています。24時間365日休むことなく、できるだけ早く正確な検査結果を依頼主に届けることが使命です。

現場や病院の様々な要求に応えていくことも大切です。臨床研究、治験、人間ドック、チーム医療活動や院内イベント等にも積極的に参画しています。「検査部だより」や「検査かわら版」発行などの情報発信も行っています。各診療科、各部署のお役に立ち、患者さんにも満足していただけるよう、前任の長井部長に倣い、弛まぬ努力を続けて参ります。まずはISO15189 施設認定の継続維持を目標に「信頼される検査部」であり続けたいと思います。

私としては栄養サポートチーム(NST)活動と2足の草鞋になりますが、今後は検査部の立場から、教育、診療、研究に注力したいと存じます。引き続き、当院検査部とスタッフ一同をよろしくお願ひ申し上げます。



## 快適な通院・通勤環境を目指して ～外来駐車場の増設計画について～

会計課施設管理室

島根大学医学部ではキャンパス全体で年次的な駐車場の整備計画を立案し、平成27年度より順次整備を行っています。

今年度は看護学科棟東側の教職員・学生共用駐車場において、砕石敷き駐車場をアスファルト舗装に改修するとともに一部拡幅整備を行い、10月より運用を開始しております。

この駐車場整備により教職員・学生の駐車台数が62台から77台へ15台分増設されたことから、現在、職員駐車場として運用している第二研究棟北側の駐車場の一部を、来院される方向への外来駐車場へ変更するよう計画しております。

本院では既に立体駐車場をメインとして外来駐車場を608台整備しておりますが、遅くとも今年の12月末までに外来駐車場を30台程度増設する計画としておりますので、より多くの患者さんやお見舞いの方に駐車場をご利用頂けるようになります。

今後もキャンパス全体の利便性や年々変化する社会状況を考慮した駐車場整備の実施・検討を行い、来院される皆さんや教職員がお互いに気持ちよく過ごせるよう、より快適な環境整備を行ってまいります。



▲看護学科棟東側駐車場



附属病院外来駐車場配置図





# ご報告

## 下肢動脈閉塞に対する新しい治療法

放射線科 助教 なかむら めぐみ  
中村 恩  
教授 きたがき はじめ  
北垣 一

閉塞性動脈硬化症による下肢動脈閉塞・狭窄 (PAD: Peripheral Arterial Disease) に対する経皮血管の動脈拡張術において最近話題になっているのが以下の2つです。両者とも器具の表面にパクリタキセルを塗布し、血管平滑筋細胞の過剰増殖を抑制し、再狭窄を防ぎます。

- ①薬剤塗布血管拡張用バルーン(風船状の拡張器具)
- ②薬剤溶出型末梢血管用ステント(金属製の拡張器具)

閉塞性動脈硬化症による下肢動脈病変で生じる疼痛、跛行、皮膚潰瘍などのさまざまな症状に対しては内科的治療、外科的治療、血管内治療と多様な治療手段があります。下肢動脈病変が内科的治療では効果が不十分で、外科的治療が困難な場合に血管内治療が適応です。本邦では高齢化に伴い癌、心臓病、脳血管疾患などさまざまな疾患が合併している閉塞性動脈硬化症の例が増加しました。そのような例では、血管内治療の適応が増えます。下肢動脈病変の血管内(カテーテル)治療器具は日進月歩であり、最近では治療効果が格段に向上しています。

上記①の薬剤塗布バルーンが2017年9月に認可され、動脈の開存率は68.9%と、従来のバルーン単体による拡張術の46.9%と比べて大幅に改善しています。さらに2019年6月より②の薬剤を塗布したステントが下肢動脈についても使用認可されました。臨床試験では1年開存率が88.5%と従来のステントに比べて10%ほど成績が向上しています。

これらの最新の医療器具は保険診療の範囲で用いることができます。治療については内容を患者さんに説明した上で、最適と考えられる方法を選択します。

今回提示する画像は薬剤塗布血管拡張用バルーンを用いて治療した患者さんの画像です。

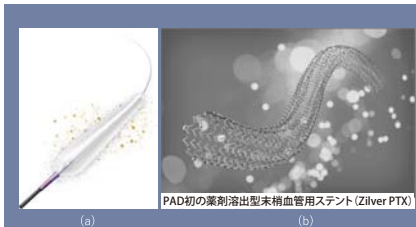


Fig1  
(a)薬剤塗布バルーンカテーテル  
(b)薬剤塗布金属ステント



Fig2  
(a)60代女性 左浅大腿動脈(矢印)が閉塞しています。  
(b)閉塞部を薬剤塗布バルーンで内腔を拡張し、血流は回復しています。



# ご報告

## 前立腺癌に対する放射線治療において直腸の有害事象を軽減する取り組みを始めます

放射線治療科 講師 たまき ゆきひさ  
玉置 幸久

前立腺癌に対する根治治療には、手術、外部照射(強度変調放射線治療:IMRT)、密封小線源治療の3つがあります。放射線治療科ではそのうち、外部照射と密封小線源治療の2つを主として担当しています。外部照射にしても、密封小線源治療にしても、がんのある前立腺だけに完全に限定して照射することはできず、周囲にある直腸、尿道、膀胱といった隣接臓器の一部にも放射線が照射されます。とくに直腸への照射は将来、直腸出血や直腸潰瘍などのリスクとなり、患者さんにとって最も重要な晩期有害事象と位置付けられてきました。

そこで、このたび前立腺と直腸とのあいだにハイドロゲルを注入して、物理的に前立腺と直腸のあいだに1cmほどのスペースを広げることができるSpace OARシステムを導入いたしました。現在1例目の開始にむけて最終の準備を行っております。

外部照射に併用して行う場合は外部照射の1-2か月前に前立腺生検術と同様に経会陰的に局所麻酔をして注入します。密封小線源治療に併用して行う場合は、小線源治療に引き続いて行います。ハイドロゲル直腸スペーサーは、主にポリエチレングリコールからなり、細胞の障害性や、刺激性、過敏性はありません。注入するとすぐにゲル状になり、約3カ月間の状態が維持されます。3か月を経過すると、ゲルは体内で自然に分解吸収され消滅します。

欧米で実施された無作為化臨床試験の、中央値3年の追跡期間での結果では、臨床問題となる直腸のQOL低下がみられる患者の割合がSpace OARシステムを使用しなかった患者群と比べて66%低下しました。<sup>1)</sup>

前立腺癌における放射線治療(外部照射、密封小線源治療)における、直腸合併症の低減に寄与することができ、今まで以上に安心して放射線治療をお受けいただけることができるものと考えております。なおSpace OARシステムは泌尿器科と協力して施行いたします。前立腺癌の患者さんがおられましたら、是非とも泌尿器科、放射線治療科にご紹介ください。

1) Hamstra DA, et al. Continued Benefit to Rectal Separation for Prostate Radiation Therapy: Final Results of a Phase III Trial. Int J Radiat Oncol Biol Phys. 97: 976-985, 2017.

問合せ先 放射線治療科 TEL:0853-20-2582

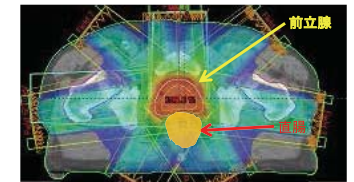


図1:従来の外部照射の放射線治療線量分布図

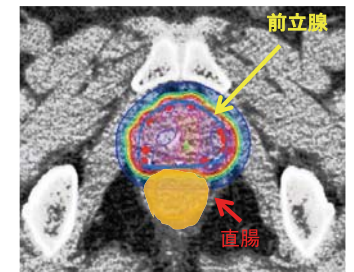


図2:従来の密封小線源治療の放射線治療線量分布図

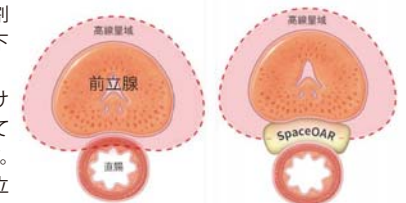


図3左:従来の前立腺癌放射線治療の線量分布と直腸との位置関係

図3右:Space OARシステムを用いて放射線治療を行った場合の線量分布と直腸との位置関係

(ボストンサイエンティフィック社ホームページより、<https://www.spaceoar.jp/>)





## 緩和ケア週間イベント

緩和ケアセンター センター長 なかたに としひこ  
中谷 俊彦

緩和ケアを普及啓発する目的で「世界ホスピス緩和ケアデー (World Hospice & Palliative Care Day)」の活動が世界で行われていますが、本邦では10月上旬の一週間を「ホスピス緩和ケア週間」とし、ポスターの掲示およびセミナーや見学会など各施設で取り組みが進められています。

当院では2010年より「ホスピス緩和ケア週間」の広報活動を行っていますが、今年も緩和ケアセンター(医療スタッフ多職種)が中心となり「つながる、緩和ケア」をテーマとして院内外活動を行いました。10月11日(金)に病院玄関で患者さん、ご家族や医療従事者を対象として、緩和ケア啓発用のリーフレット、風せんかずらの種(院内各スタッフが心を込めて育てました)を配布しました。

引き続き10月12日(土)10時~12時に、イオンモール出雲でイベントを開催しました。緩和ケアについてのミニレクチャー、緩和ケアをよりわかりやすくご理解いただくための寸劇(当院精鋭「なご☆みんな座」熱演)により、緩和ケアはいつでもどこでも受けられることをアピールしました。

その後、緩和ケアに理解のある松江市在住のミュージシャン門脇大樹さんによるミニコンサートを公演していただき、会場全体が一つになり感動的な時間を過ごしました。広報活動中は会場内で、緩和ケアチームメンバーによる多職種の活動紹介ポスター掲示と解説を行い、緩和ケア啓発用のリーフレット・風せんかずらの種を500部配布しました。

当日は台風の影響が心配されましたが、多くの皆様方にご参加いただき緩和ケア広報活動を終えることができました。ご協力下さった皆様に深謝いたします。

